

茶病虫害防除情報

【第 14 号】

令和元年 8 月 26 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

秋雨による長雨・多湿の気象が続き病害多発の恐れ

秋芽生育期の病害特別防除対策

厳しい市況状況でのお茶づくりご苦労様でした。蒸し暑い残暑の中来年産茶に向け秋の茶園管理に努められていることと思います。今年の秋芽生育期の 8 月前半は猛暑の晴天が続きましたが、台風 10 号が襲来した 8 月 14-15 日以降は雨天日が多くなり、下旬は秋雨前線の影響で曇雨天・多湿の気象条件が続いています。茶園は概ね秋芽生育期の後半で、罹病性品種の「やぶきた」などは炭疽病、新梢枯死症、網もち病などが感染しやすい状態で、今後多発が予想されます。特にこの時期のこのような多雨・多湿の気象条件では、最近発生が増加傾向の網もち病の多発の恐れがありますので、注意しましょう。今年も更新園などが多く、秋芽の生育は様々な状態ですので、芽の生育状態と降雨状況を勘案し、降雨の合間などに、早急に適切な防除を進めましょう。

★ 秋芽生育後半の病害の発生と防除法

炭疽病は、二・三番茶の発病葉から伝染し、秋芽の萌芽-4 葉期頃に感染します。伝染源病葉は少ない状況でしたが、降雨が続くと急激に病原菌は増殖し、感染が続きますので今後多発する恐れがあります。薬剤防除は秋芽の生育期に、一般に予防剤と治療剤 DMI 剤の順に体系で防除し、現在 2 回目の治療剤 DMI 剤(インダー ワリ-ワ)の散布時期か、終了する状態と思われる。今年、防除を実施していないか、遅れている茶園ではこれまでの降雨持続などで、感染がかなり進んでいることも考えられます。このような状況の場合は治療剤を早急に散布し防除を進めてください。今後も雨天傾向が暫らく続く気象予報ですので、特に前報でお知らせした普及情報のダエニール 1000 とインダーワリアまたはワリワリアを混用して散布する新防除法は極めて有効と思われる。

新梢枯死症は、二三番茶期に発病した輪斑病葉が伝染源になり、秋芽生育期の 2 葉期前後に苞葉の脱落痕から感染し、発症しますが、この時期に降雨が多いと多発します。2 葉期頃が薬剤防除適期です。

網もち病は秋芽が生育し、新芽が繁茂する生育後半(3-5 葉期)の 8 月下~9 月初旬頃雨天・多湿条件が続くと菌(担孢子)が飛散して感染します。また、秋芽の生育が遅く 8 月下旬から 9 月中旬になるような園で感染しやすいです。感染後約 2 ヶ月位の潜伏期を経て葉裏に白い網目状病斑を発病します。11 月頃発病に気づいても対処法はありません。今年はかなり多発しやすい気象条件で、注意が必要と思われる。DMI 剤などで炭疽病と同時防除もできますが、これまで発生が多い地域や園ではさらに 4-5 葉期頃に銅剤を追加散布し、防除します。

★ 具体的な今後の病害薬剤防除方法

対象病害・秋芽状況・防除状況	具体的薬剤防除の方法
<p>炭疽病 新梢枯死症 網もち病 秋芽生育初期 防除未実施状態 (降雨前 感染前対策)</p> <p>新梢枯死症多発の恐れがある園 (輪斑病多発園)</p>	<p>慣行(栽培暦)防除法 (早急に実施)</p> <p>1回目(1葉期) ベフトー水和剤 500倍 又は ダコニール1000 700～1000倍</p> <p>2回目(3～4葉期) インターフロアブル 5000～8000倍 又は オンリーワンフロアブル 2000～3000倍</p> <p>1回目と2回目の間2葉期頃</p> <p>アミスター20フロアブル 2000倍 又は ダコニール1000 700～1000倍 フロンサイト SC 2000倍 テプロスフロアブル 1000倍 など</p> <p>備考 2回目(インター オンリーワン)を1葉期ほど遅らせる</p>
<p>炭疽病 新梢枯死症 網もち病 秋芽2～4葉期 防除未実施状態 (降雨持続 感染後の対策)</p> <p>新梢枯死症多発の恐れがある園 (輪斑病多発園)</p>	<p>治療剤先発防除法 (既に感染状態のため治療剤を最初に散布)</p> <p>1回目(2～3葉期) インターフロアブル 5000～8000倍 又は オンリーワンフロアブル 2000～3000倍</p> <p>2回目(3～4葉期) ベフトー水和剤 500倍 ダコニール1000 700～1000倍</p> <p>予防剤・治療剤混用散布法 (新普及情報)</p> <p>2～4葉期 ダコニール1000 700～1000倍 + インターフロアブル 5000～8000倍 又は オンリーワンフロアブル 2000～3000倍混用散布</p> <p>2葉期頃</p> <p>アミスター20フロアブル 2000倍 フロンサイト SC 2000 テプロスフロアブル 1000倍 など</p> <p>備考 混用散布は3～4葉期に遅らせる。</p>
<p>網もち病 (重点対策) 秋芽3～4葉期 秋芽生育の遅い園</p> <p>多発生の恐れがある園 秋芽4～5葉期</p>	<p>慣行防除法(栽培暦) 確実な実施</p> <p>2回目(3～4葉期) インターフロアブル 5000～8000倍 又は オンリーワンフロアブル 2000～3000倍</p> <p>慣行防除後さらに4～5葉期に銅剤を追加散布</p> <p>銅剤・・・クプロシールド 1000倍 コサイト 3000 1000倍 Zホルトー 400～500倍 フジトールフロアブル 500倍 トイホルトー-A 500倍 など</p>